

**(4) ②様式第4号-2 (報告書)**

※原稿サイズはA3、文字はMeiryo UI /12ポイント以上、余白は10mm以上で記入してください。

※各項目の枠の幅は自由に変更していただいて構いません。写真等添付することも可能ですが、必ず用紙の中に納まるようにしてください

**【案件名】教職大学院と教育委員会の連携・協働支援事業「教員のキャリア形成に何が必要なのかー現場からの提言ー」**

**案件概要： Describe the project**

※戦略・アイデア、テーマの詳細や実施方法を含めて記載してください

「教員のキャリア形成に何が必要なのかー現場からの提言ー」をテーマとするパネルディスカッションを実施した。「教員の資質の向上に関して必要な事項についての協議を行うための協議会」の設置、「教員としての資質に関する指標」策定、その指標に基づく教員研修計画」などが実行されている状況の中で、学校現場の責任者である学校長は、教員のキャリア形成をどのように考えているのか。自治体や学校種を異にする学校長より多様な視点で提案をいただきながら、現職教員の研修に詳しい教職研究科教員によるコメント、パネリスト間での相互討議、パネリストを囲んでのグループディスカッションなどを通して、教員のキャリアデザインについての認識を共有し、教育委員会関係者、現職教員（公立学校、私立学校）、教職大学院院生間での新たなネットワークを構築する場として企画を実施した。

**実行： Execution**

※開催日時・場所、参加した人数（属性ごと）、当日プログラム、実施の様子等を具体的に記載してください

**【開催日時】**2017年12月17日（日）13:00-16:15

**【開催場所】**立命館大学朱雀キャンパス中川会館 多目的室

**【当日のプログラム】**

13:00-13:10 NITS カフェの開催にあたって（立命館大学大学院教職研究科長 春日井敏之）

13:15-15:10 パネルディスカッション

（司会：立命館大学大学院教職研究科副研究科長 森田真樹）

（パネラー：滋賀県立八日市南高等学校校長 中尾俊一氏 京都市立高倉小学校校長 岸田蘭子氏

京都府宇治市立北宇治中学校校長 松元伸祥氏 大阪府摂津市立摂津第二中学校校長 筒井豊氏）

（コメンテーター：立命館大学大学院教職研究科教授 久保 富三夫 立命館大学大学院教職研究科准教授 小松茂）

15:15-16:00 グループディスカッション<パネラーを囲んでのグループ討議>

16:00-16:15 全体討議

**【実施の様子】**

パネリストから所属の校種、自治体の状況を踏まえた提案が行われ、各コメンテーターの視点から発表内容の整理がなされた。質疑応答の際には京都府総合教育センターからの参加者より現在の京都府の研修の状況についても紹介されるなど、各パネリストからの提案をさらに深める内容となった。グループディスカッション（パネラーを囲んでのグループ討議）では小学校、中学校（2グループ）、高等学校の校種ごとに4グループを作り、教職研究科の教員が進行役となってテーマに基づく活発な議論が行われた。

## 成果： Results

※参加者の感想を含め記載してください

参加者からは教員のキャリア形成のために必要なことを学ぶことが出来た、教員の主体性の重要性、初任者、ミドル、管理者に求める力を分けすべき点、分けすべきでない点を学んで大変勉強になった、教員の中心には「人間関係」があり、教員と子ども、そして子ども同士、教員同士のつながりを築くことが大切だと感じました等の感想を得た。また、パネリストからも、他校種・他自治体の考え方に触れることができるとともに、グループディスカッションで多様な意見に触れることができ、パネリストにとっても貴重な機会となったという感想を得た。前向きな感想を多くいただき、今回の企画の所与の目的は達成できたと考えている。

その一方で、私立学校の現職教員からは、今回のパネリストが公立学校教員のみであったため、私立学校教員のキャリア形成について話が聞きたかったという感想もあった。京都や大阪には、かなりの数の私立学校が存在しており、公教育全体の質向上を考えるには、私立学校教員のキャリア形成について検討することも重要である。学校ごとに設置の形態等が異なり、議論の進め方が難しい面もあるが、私立学校の教員のキャリアデザインをどう考えていくことができるのかについては、研究科としての課題でもあると受け止めて、次年度以降の取り組みに反映させていきたいと考えている。